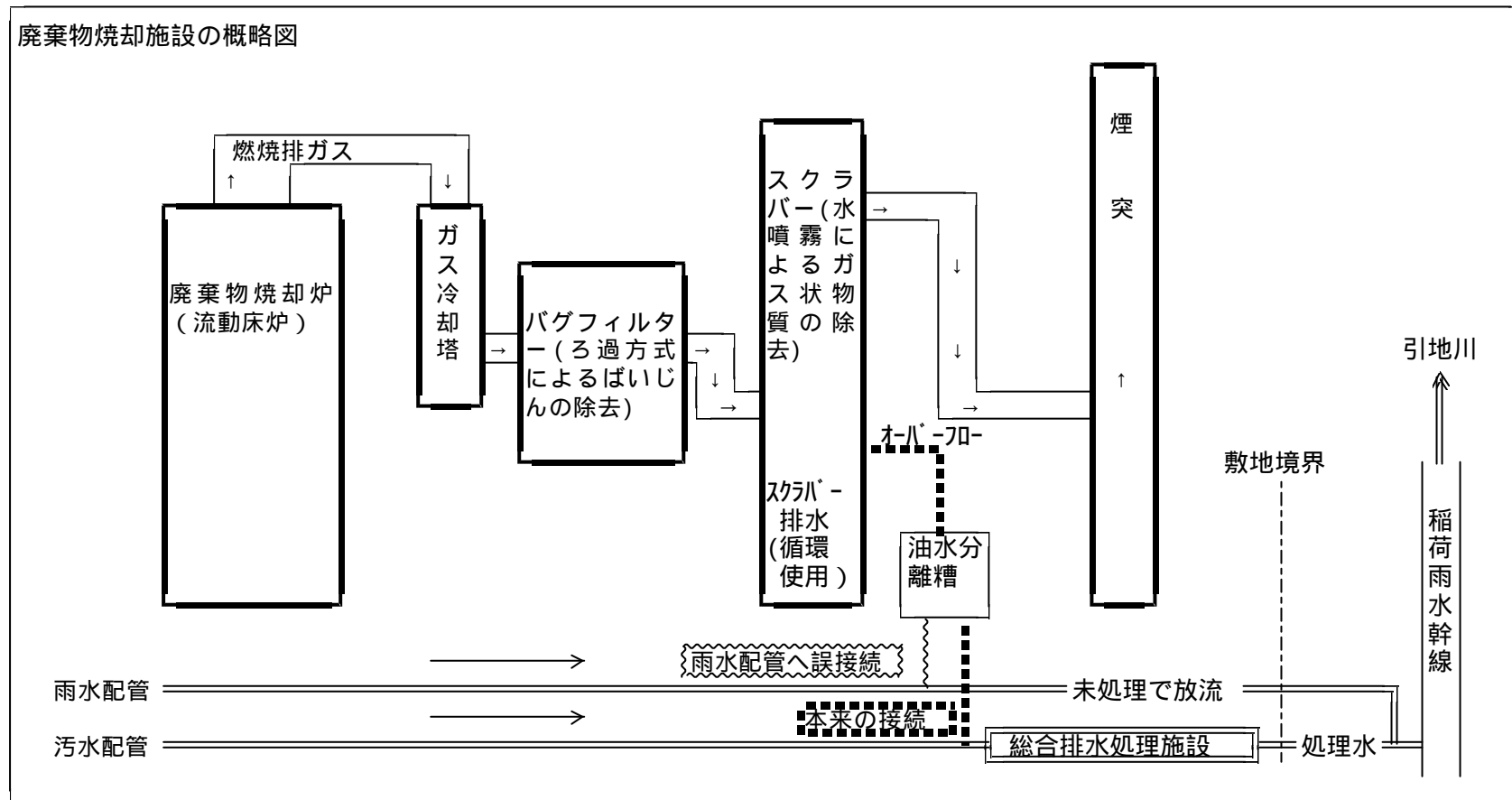


図2 ダイオキシン類の排出源となった廃棄物焼却施設の概要



(*)流動床炉とは、炉内で高温の砂を流動させながら投入された廃棄物を焼却する方式の炉である。

表 1 流動床炉の処理能力等

排ガス量 (m ³ /h)	排水量 (m ³ /h)	定格能力	
		焼却能力 (kg/h)	火床面積 (m ²)
最大13,090、通常11,900	2.45	1,250	4.3

表 2 流動床炉における廃棄物の年度別焼却実績表

年度	有機性汚泥	水溶性廃液	廃塗料カス	雑芥 (廃プラ含む)	紙くず	木くず	試験ごみ (プラスチック類含む)	処分量 合計	(単位、トン)		
									もえがら (再利用)	ばいじん	(もえがら + ばいじん)
平成 4 年度	-	-	-	16.0	-	186.0	-	202	-	-	3.7
平成 5 年度	54.0	259.0	32.0	160.0	193.0	539.0	144.1	1,381	-	-	160.0
平成 6 年度	141.0	378.0	25.1	221.7	336.0	734.3	222.8	2,059	-	-	166.2
平成 7 年度	126.1	207.5	23.4	149.7	229.5	600.4	194.0	1,531	-	-	162.6
平成 8 年度	125.4	182.4	22.9	133.5	60.8	747.6	255.2	1,528	-	-	136.6
平成 9 年度	138.8	170.8	19.4	175.7	38.4	666.1	9.3	1,219	-	-	150.2
平成10年度	136.8	222.2	20.9	132.8	43.5	597.8	22.7	1,177	39.9	81.7	121.6
平成11年度	122.2	174.4	18.4	157.8	40.3	542.4	3.0	1,059	39.1	84.5	123.6
合計	844.3	1,594.3	162.1	1,147.2	941.5	4,613.6	851.1	10,154	79.0	166.2	1024.5

表 3 - 1 ダイオキシン類の発生・排出状況（県・市調査）

（単位：水質：pg-TEQ/L、土壌等の固形物：pg-TEQ/g）

区分	対象施設	調査対象試料	分析結果	試料採取日
排出源 特定の ための 調査	流動床炉	スクラバー排水	98,000	3/24
		側溝堆積物	13,000	4/7
		〃	160,000	〃
		周辺堆積物	230,000	〃
		燃え殻	9.0	〃
		〃	61	〃
		ばいじん	130,000	〃
		〃	250,000	〃
		ピット汚泥(雨水ます)	300,000	〃
汚染範囲の調査		施設近傍土壌(1)	230	4/7
		〃 (2)	34	〃
		〃 (3)	67	〃
		〃 (4)	15	〃
		付近実験棟側溝堆積物	3,100	〃
		工場棟屋根堆積物(V2)	150	〃
		〃 (A)	180	
		〃 (V1)	240	
その他 の排出 源の調 査	化学分析棟	容器洗浄排水(A2)	14	4/7
		排水溝堆積物(A2)	430	〃
	総合研究所	排水	55	〃
	ガス化溶融炉	スラグ	18	〃
		スラグ水封水	15	〃
		ばいじん	2,400	〃
		ばいじん系排水	98	〃
工場排 水	総合排水処理施設	原水	43	〃
		処理水	8.6、7.0、6.7、8.0	3/23、3/23、3/31、4/7
		脱水汚泥	320	4/7
	稲荷雨水幹線流入部	雨水系排水	10,000、 210	3/23、 3/31
	稲荷雨水幹線合流点	雨水・処理水の混合水	38,000、 27,000	3/22、 3/22

（参考）ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準

水質： 1 pg-TEQ/L 以下

土壌： 1,000 pg-TEQ/g 以下

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく水質排出基準値(平成13年1月15日から適用)

10pg-TEQ/L 以下(平成15年 1 月14日までは50pg-TEQ/L)

毒性評価係数は、WHO-TEF(1998)を適用した。